

そっと あとでけ



SEPTEMBER かわい
MONTHLY vol. 5

「ココチャッ」

山本文理著 EPT

中学生2年生。高島には好んで人をいたずらう。お戯場上の小僧さんだった（実物）。そのお寺さんの昔の彼女（可憐）が他の男を置いてお前の父親に人品教手の本をバグを依頼した。ちよてびつ大人にならぬがってもいいらしい。本の中の書類もじょとく今頃。今が「読みどけ」の「今」とです。

「スター・キ ダーリ」

山口一実著 EPT 1993年

「青春」とは、過ぎてからその価値に気がつくものだ。その最初年にいる時は、年の意味らしさに気が付かない。あれから15年たつて、しおはスター・ダーリのことを忘れない。少しの懐悔で泣なき泣に見つかりだして、まるで青春を感しはじめるよに……。

「樹上のゆりかご」

佐原 純子著 FT

隣の高校には免許がない、運転がないものが居心地いい。それが何が何でもない。しかし、それは豊川高校生を変貌していく証めかもしれない。なんせアスリートが隣接だが、隣中の青春のどうしようもない、せつない長いが描かれている。

「青春デンデケアタケ」

芦原 すなはる著 FA

「歌との体に電気があった。
デンデケアタケ~~~~!
それは、ラジオから流れた ベンチャーズの
『Pipeline (パイプライン)』という曲。
その瞬間、ローブの上位になれた
主人公の高校3年生。歌以外の歌
を聞いて歌わざグッとも一時
です。

「見ておとづけ」は直方市立図書館司書によるミニ輪刷です。

本の紹介や図書館イベントなど……。

図書館をもって身近に、歩きをもって好きにならぬような新聞になれば……と想っています。

さて！暑めた夏もそろそろ終わり。今日の空は高く涼む満天。いまは「読書の秋」到来！
そんな今月号のテーマは「青春」です。それ故長き、深い恋の音と情に、図書たちが囲んだ本をお楽しみ下さい。

「青色い日の歌」

佐藤 佐恵子著 FT

旅でアカギが好きな木鳥。
最近好きなものが増えた。アカギ以外、村松
さわは叔父の通ちゃんが好き。
最近始めた。本屋も好き。
コンピュータと二度寝机に悩むはず。
二人の親友をや書いてあって、
おもしろいで。

「アリスの悩み」

方澤一郎著 FA 一冊 1,980円

アリスの家族は、うぐい見とドリー。
でそのいのいの下では人間の見本となる
女性が住んでいた。ボーグルズの
つかいかち下層の人もびきななど。
だから、見本となるは尋ねた。あこがれの
先生の77歳はまだ人間だったのか?
なぜなぜ見とうとおに何かない。

「半TEEN」

石田 衣良著 FI

周囲に住む男の中学生、主人公。
「大人になら今まのことを思へぬぞ」——。
悩んで、泣いて、死きて——今すぐ大人びて
前进する。フルカラ今とされ中学生の隠い、
とても身近な話で、現代というトネを
身上させられます。ほんといかなか
見て見て歌わざグッとも一時
です。



